

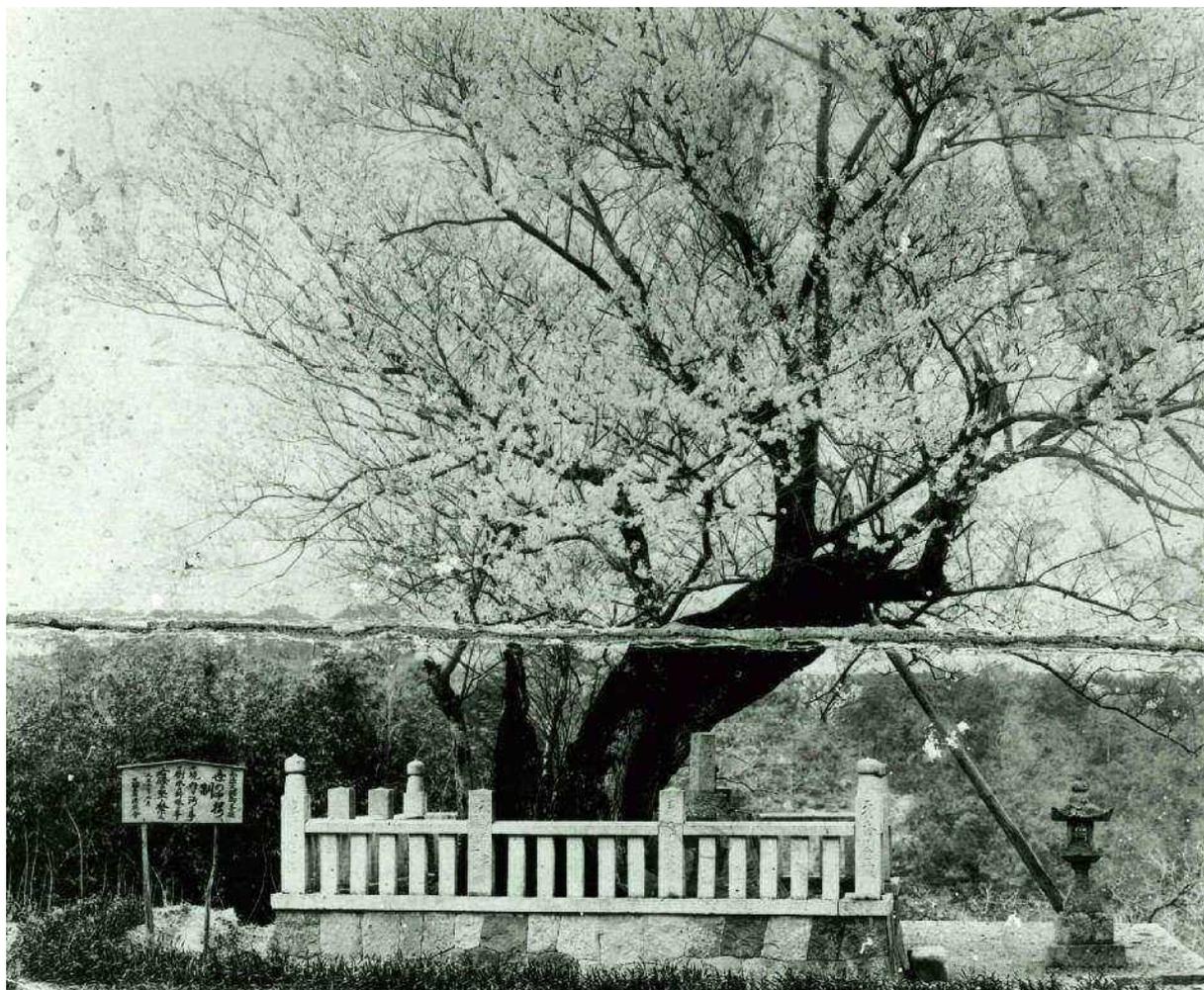
三豊市文書館だより

七 宝

Vol.2

発行 三豊市文書館

平成 24(2012)年 3 月 30 日



世の中桜(年代未詳・財田町)

目 次

普及事業 春期企画展・・・2

館長の万覚書 巻一・・・3

文書の移管・整理・公開・・・3

My Select ー資料整理の現場からー・・・4

表紙の写真・・・・・・・・・・4

文書館日誌・・・・・・・・・・4

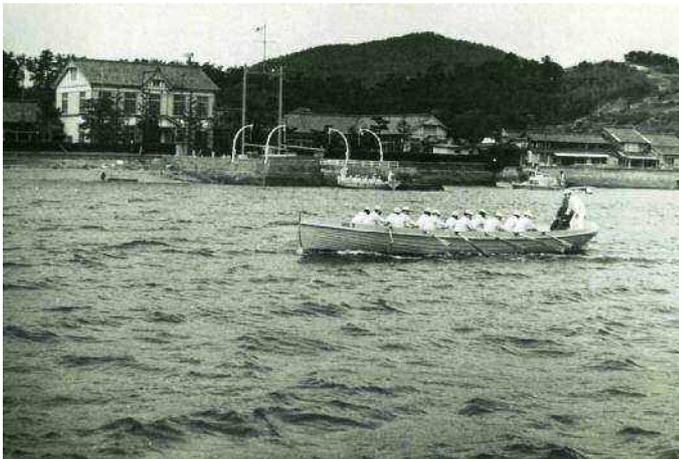
普及事業

◎ 春期企画展

「三豊思い出写真帳 Vol.1 ～ 人が集う^{つど} ～」

平成 24 年 3 月 1 日 (木) から 4 月 26 日 (木) まで開催しています。

昭和 30～40 年代を中心に、商店街や映画館、駅、役場の旧庁舎など、人が集う施設の写真を展示しています。



主な展示資料

・粟島海員学校

年代未詳・詫間町・登録有形文化財

粟島海員学校は、昭和 62(1987)年に廃校となった。その起源は、明治 30(1897)年に、日本最初の海員養成校として設置された粟島海員補習学校である。大正 9 (1920)年建築の木造 2 階建ての本館などが、現在、粟島海洋記念館として、整備・保存され、一般に公開されている。

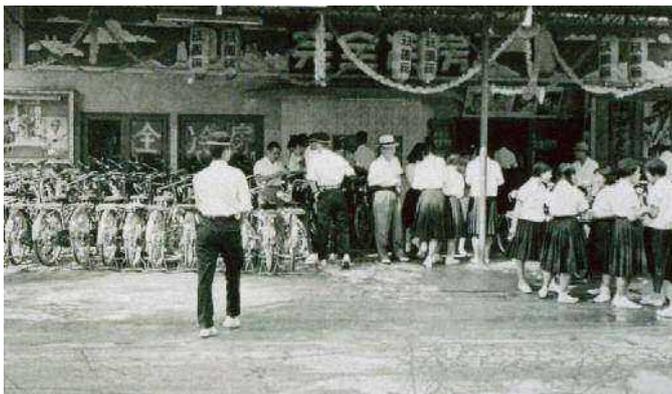
・高瀬大坊駅 昭和 36 (1961) 年頃・三野町

高瀬大坊駅は、昭和 25(1950)年に大坊市の期間中に、列車が臨時停車する仮駅としてスタートする。高瀬大坊駅は、地元の強い要望によって開設された駅で、当初は駅舎やホームの建築を、地元がおこなっていた。昭和 36 (1961) 年には、高瀬大坊駅開通式がおこなわれた。平成 6 (1994) 年に「みの」駅に改名する。



・ギオン館 年代未詳・高瀬町

高瀬町にあった映画館。ギオン通りの祇園神社の向かいにあったので、ギオン館という。高瀬町には、駅前通り商店街にも「松竹座」という映画館があった。





日増しに春の足音が近づき、財田「世の中桜」もほころびそうな今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？

文書館だより『七宝』も堂々の第2号が発刊という盛儀となりましたが、担当者が「異動前に三豊市文書館だより『七宝』の名前の由来について何か一言書きなさい！」というので、館長最後の言葉として一言。

「・・・地球か・・・何もかも懐かしい・・・」って、そりゃ宇宙戦艦ヤマトの沖田艦長の名セリフやろ！「かんちょう」違いやがな！

あっ、そうやった、そうやった。もとい。

三豊市文書館が職員、市民への情報発信として文書館だよりを発刊することとなった昨年、「ところでタイトル何にするな？」という担当者との会話から、議論が展開し始めました。

三豊市やから、やっぱ『みとよ』？

そもそも「三豊」っちゃ「三野郡」と「豊田郡」やったらしいから、「三豊」で使ってない『野田』にする？

それもなあ芸がないし・・・

「やっぱり三豊市ならではとか、ここならでは・・・というものを」

「そなにいうてもなあ・・・」

と、そこへ流れてきたのが、最近では恒例のお昼のチャイム♪

「さ～ぬきのみねよ～り～♪」

おおっ！あれこそ我が三豊市の歌『七宝のかぜ』～♪そういえば作詞者の関秀明さんが前にええこといよったなあ・・・何やったっけ？・・・

そうそう！「合併した七つの町は、それぞれの町が『宝』なので・・・」

これや！これしかない！

やっぱ香川県の市町で一番に文書館ができたんも、七つの町、七つの宝が合併できたからや！

やっぱ作詞家関さん、ええこという！

これからも七つの町が終生和合できるように、関さんの三豊市の歌にあやかっつけよ！

決定！三豊市文書館だよりのタイトルは『七宝』や！

（決してこれらの試行錯誤及び思考論理展開については俗世間において「パクリ」とよばれるものではなく、「共感」もしくは音楽で言うところの「共鳴」であることを明記しておく。）

という苦しみの結果、めでたく三豊文書館だより『七宝』が誕生したのであります。〔完〕

三豊市文書館の開館に際し、御尽力賜りました皆様、また一年という短い期間でしたが、お世話になった皆様に対し、紙面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後も三豊市文書館をよろしく願います。

（館長 横山 功）

文書の移管・整理・公開

三豊市文書館では、1～3月に左表のとおり、文書を搬入しました。今後は評価選別・整理作業をおこない、公開に向けて準備を進めていきます。

旧豊中町教育委員会永年保存文書	整理中
旧財田町議会の写真資料	整理中
旧三野町議会の写真資料	整理中
三野町保健センター 有期限文書	68点
旧山本町永年保存文書	整理中
旧詫間町議会事務局書庫の文書	整理中

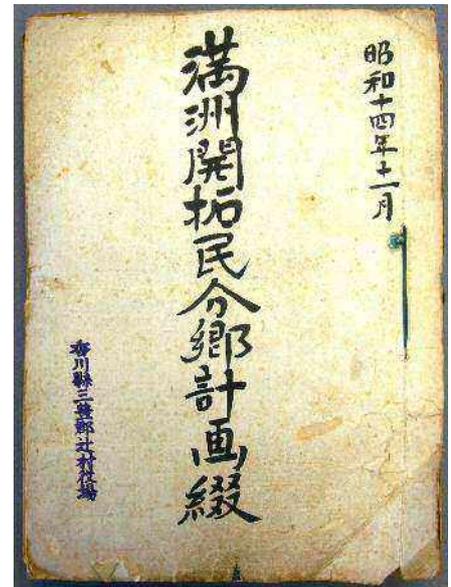


My Select — 資料整理の現場から —

「昭和 14 年 11 月 満洲開拓民分郷計画綴 香川縣三豊郡辻村役場」紹介

昭和 14(1939)年 10 月から昭和 19(1944)年 12 月までの公文書と、当事の開拓団団長の原數榮氏(後の山本町長。当時 42 歳)の書簡を中心とした史料である。「水、気温、田畑、交通、治安何レモ申シ分アリマセン」との事前報告の文書があるが、「令下三十度トタタカイ……はくいきに鼻下アゴ下に氷りを生掛り候」と注釈がある入植後の団長の写真があり、現地の厳しい環境を知ることが出来る。独身の開拓団員に配偶者を見つけてあげたいという内容のものや、医師・産婆さんを雇いたいといった内容のものもあり、原団長が団員の為に心を砕いていた様子がうかがえる。そして、「建設後三カ年といふに未だ入植戸數其の半數に不満憂慮罷在候」「目下団長も帰省日夜團員募集に懸命なるも成績面白からず腐心致居候」という昭和 18(1943)年 3 月の文書の後、「ニュース映画ニ関スル件」「題材『決戦出荷』』という昭和 19 年 12 月の文書に続き史料は終わる。開拓の苦労と「ニュース映画」という明るさの落差に敗戦後の悲劇が予感され、史料的価値はもちろん、人々の歴史の証拠として大変興味深い。19 年 12 月以降の史料の確認もしなければならないが、三豊市の満洲開拓団の総合的な研究が待たれる。

(臨時職員 中田 陽子)



文書館日誌

(1 月 4 日～3 月 29 日)

- 1. 17 学校教育課より、旧豊中町教育委員会永年保存文書搬入
- 1. 19 市町公文書主管課長会
(県立文書館)
- 1. 24 旧財田町議会 写真資料搬入
- 1. 27 全史料協近畿部会、報告(大阪市)
- 2. 1 旧三野町保健センター文書搬入
- 2. 3 旧三野町議会 写真資料搬入
- 2. 7 県立ミュージアム視察
- 2. 17 高松市香川支所、文書整理視察
- 2. 27 旧山本町永年保存文書搬入
- 3. 1 春期企画展(～4. 26)
- 3. 1 パンフレット発行
- 3. 21 旧詫間町議会書庫文書、搬入

表紙の写真

— 春期企画展より —

世の中桜 年代未詳・財田町 三豊市指定名勝

弘法大師の由緒がある桜の木。この木の花の多少が、五穀の豊凶をあらわすと伝えられ、「世の中桜」と呼ばれるようになった。もとは瑞桜寺の境内にあったが、現在は道の駅「たからだの里」に移されている。

イラスト：臨時職員 白井 孝子

編集発行 三豊市文書館

三豊市文書館だより「七宝」vol. 2

〒768-0103

発行 平成 24(2012)年 3 月 30 日

香川県三豊市山本町財田西 375 番地

TEL 0875-63-1010

FAX 0875-63-1006

